

平成29年度事務事業評価シート(28年度実績)

◎基本情報

事務事業名		徳島県海面環境保全推進事業(掃海事業)		担当部署	経済建設部 水産振興室	
総合計画体系				根拠法令 計画など	徳島県補助金交付規則 徳島県水産関係事業費補助金交付要綱	
基本政策(大項目)	1	うきうき活力と魅力あふれるまちづくり		事業期間	開始	昭和 <input type="text" value=""/> 55 年度
政策(中項目)	1	豊かで活力あふれるまち なんと			終期	<input type="text" value="未定"/>
(小項目)		農林水産業				
施策	6	水産業の振興				
基本事業	1	漁業生産基盤の整備				

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 海底に沈降している堆積物						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	海底に沈降している堆積物等を除去し、生産基盤である藻場の復旧復元並びに漁場環境の保全及び漁業生産の安定向上を図る。						
事業計画	28年度に何を計画していたか	播磨灘沖は小型底曳網漁業、定置網漁業など多様な漁業経営が行われている。漁業環境の悪化や水産資源の枯渇による漁獲高の減少対策として、漁場の環境保全に努める為、小型底曳網漁船を使用して堆積物を引き上げ、廃棄物処理業者に引き渡し、処理する。						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
		堆積物除去量	79	79	53	53	53	m ³

◎実施結果(DO)

事業実施内容	28年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	小型底曳網漁船を使用して堆積物を引き上げ、廃棄物処理業者に引き渡し処分を行った。					
事業実施手法		<input type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他					
指標名		27年度実績	28年度実績	29年度目標	30年度目標	31年度目標	単位
活動指標 実施した事業の活動量を示す指標	1 掃海面積	1,050	1,050	1,050	1,050	1,050	m ²
	2 漁船隻数	51	52	55	55	55	隻
成果指標 対象にどのような効果があったか示す指標	堆積物除去量	53	5	-	-	-	m ³
	目標達成率(実績/目標)		6.3	-	-	-	%
今年度の進捗状況	未達成		事業全体の進捗状況		ほぼ計画どおり		

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成28年度	当初予算額	0	2,975	0	0	525	3,500
		補正予算額	0	△ 1,462	0	0	△ 355	△ 1,817
		繰越予算額	0	0	0	0	0	0
		全体予算額	0	1,513	0	0	170	1,683
		決算額	0	1,513	0	0	170	1,683
		繰越額	0	0	0	0	0	0
	人件費	正規職員(7,133千円/人)	臨時職員(2,043千円/人)	総人件費		総事業費		
		0.1	0.0	713	2,396			

事業費推移	年度	27年度決算	28年度決算	29年度	30年度	31年度
	事業費	1,873	1,683	3,000	3,000	3,000
	うち一般財源	189	170	450	450	450
	人件費	686	713	713	713	713
	総事業費	2,559	2,396	3,713	3,713	3,713

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値		所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった		漁業経営の安定を図る上で、生産基盤となる漁場の回復及び保全は重要である。
	効率性	A:効率的だった		海底の清掃作業であるため、現状を把握できているのは実施主体だけである。
②成果に対する評価	指標名	堆積物除去量		堆積物除去量は少なかったが、掃海事業を実施することにより、漁業の回復が図られた。
	目標	79	m ³	
	実績	5	m ³	
	評価	D:目標を達成できなかった		
③総合的な評価		C		堆積物除去を図り漁場環境の保全に努めたが、除去量について目標に達しなかったためCとする。

◎今後の方向性(ACTION)

課題	海底堆積物は、その年の台風・大雨などの気象状況に左右される場合が多く、除去量について目標数値がたてにくい。しかし、海面環境を保全し、漁業経営の安定化を図るため、今後も実施していく必要がある。また、底曳き網漁業者の減少も予測される中、今後も掃海事業を継続していくため、後継者の育成・確保に取り組まなければならない。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	2
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H29年度	漁場環境の悪化や水産資源の枯渇による漁獲高の減少対策として漁場の環境保全に努めるため、堆積物除去作業を実施する。また、より効果的・効率的に掃海を行うための検討を図る。			
	H30年度	平成29年度に同じ			